

## 高・大・社会人連携による古典文学ワークショップの試み

※吉野朋美（中央大学／日本文学アクティブラーニング研究会）

### はじめに

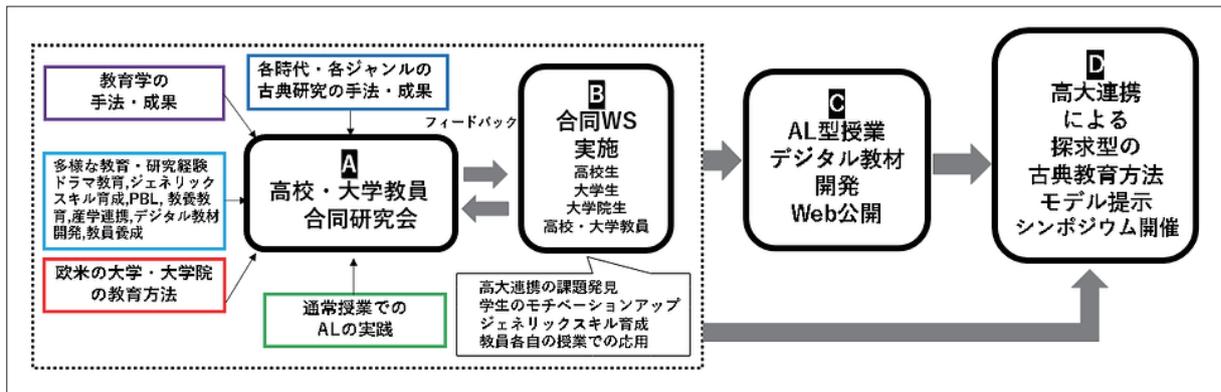
本報告は、シンポジウムを企画主催した日本文学アクティブラーニング研究会について、また、研究会がこれまで催してきた高校生・大学生・大学院生・社会人参加の日本古典文学ワークショップの取り組みについて、その概要を紹介するものである。

### 1 日本文学アクティブラーニング研究会の取り組み

本研究会は、古典のおもしろさや奥深さを実感しつつ学ぶ場を作りたい、古典研究や古典の学びをジェネリックスキルの養成やキャリア教育へとつなげていきたい、という思いを抱いていた、主に日本古典文学研究と教育に携わる研究者仲間です。2013年に、意見交換の場として個々のアクティブラーニング型の授業実践を報告するところから始まり、2015年からは年に一度のペースで祝祭的な一日がかりのワークショップ（以下、WSと略称する場合もある）を実施、普段の授業実践に生かせるような教材作成をおこなってきた。2019年から、科学研究費補助金（基盤研究（C）「高大連携による古典文学の探究型授業の教材作成と教育モデル構築の実践的研究」課題番号19K00530 代表：吉野）による助成を受け、研究会の取り組みをさらに発展させるべく活動している。研究会および科研のメンバーは、青木幸子（元昭和女子大学、科研の分担は2022年度まで）、兼岡理恵（千葉大学）、小林ふみ子（法政大学）、佐藤至子（東京大学）、中嶋真也（駒澤大学）、中野貴文（学習院大学）、平野多恵（成蹊大学）、吉野の8名である。

研究会活動の中心となるワークショップは、日本の古典文学を体験的に学び、言語文化の成り立ちについて視野を広げることをねらいとしている。したがって、教科書に載らない作品も対象とし、見立て、おみくじ、パロディ、ディスコミュニケーションや、漢字・仮名などの用字の工夫、修辞法といったテーマのもと、古典に見える思考や発想、言語のありようが現代の文化に息づいていることを体感できるような素材を選んでいる。もとより、WSを通して参加者が古典のおもしろさを実感できること、さまざまなワークを通してジェネリックスキルを養うことも大事な要素である。

ワークショップは20～30名程度を対象にし、ほぼ一日がかりでおこなう。開催当初は大学生のみの参加だったが、現在は教職志望の大学院生、高校教員と高校生、さらには高校・大学の教員、出版印刷系の社会人の方々の参加も得て開催している。WS後は、研究会メンバーが各勤務先でその成果にもとづきながらそれぞれの状況に合わせて応用しつつ授業実践をおこない、汎用的なモデル教材開発に取り組んでいる【注1】。その過程をイメージしたのが以下の図である。



## 2 ワークショップの枠組み

3で各回の概要を具体的に示すが、ワークショップは毎回素材・テーマを異にするものの、以下に挙げた共通の枠組みでおこなっている。

- ①アイスブレイク……参加者の多くがほぼ初対面なので、場の雰囲気をつくり緊張を和らげる意味で重要である。その回のテーマに関連するものを20～30分程度おこない、その後の導入にもする。
- ②レクチャーとそれに関連する活動（ワーク）……レクチャーはできるだけ新しい研究成果や手法を盛り込みながら20分以下でおこない、レクチャーでインプットしたことをワークでアウトプットする、ということを繰り返しながら理解を深め、次の③創作活動につなげていく。ワークではワークシートの設計が肝心で、何をどこまで示すか、どういう活動にするか、個人とグループのバランスをどうするか、といったことに気をつける。
- ③創作活動と成果発表……レクチャー、および関連するワークで学んだことをふまえ、参加者が現代の自分たちにひきつけた創作活動をグループでおこない、成果発表をおこなう【注2】。本研究会のワークショップでもっとも重視するパートである。
- ④まとめ・ふりかえり……テーマに関する発展的な内容のレクチャーをし、まとめとする。その後、参加者はWSでの学びを今後に生かすために、ORID Questionsのフレームワークを用いたシートをもとにしてふりかえりをおこなう。ふりかえりシートでの質問は以下の4点である。
  - 1、今日のWSで、もっとも印象に残ったことはなんですか。
  - 2、そのとき、あなたはどのように感じましたか。
  - 3、そのことから、なにを学びましたか。
  - 4、それを今後役に立てるとしたら、どのように役に立てられるでしょうか。

## 3 各回のワークショップについて

以下、8回分のワークショップについて、ワークシート例と実施時の写真とともに概要を紹介する。

### 第1回 和歌を演じる——伊勢物語（2015年3月27日於法政大学、大学生のみ27名参加）

和歌の内容を理解したうえで、そこから物語を創り出す体験、およびそれを実際に演じることを通して、和歌のもつ力や物語における和歌の役割を実感するためのワークを考案した。具体的には『伊勢物語』第二段の和歌「おきもせず寝もせで夜を明かしては春のものとながめくらしつ」をもとに、グループで物語をつくり演劇化して発表した。初回は大学生のみの参加だった【注3】。



歌物語を創ろう <small>グループ名</small> <small>ニックネーム</small> <small>名前</small>	● 次の歌が詠まれた状況を自由に想像して、左の空欄に記入しよう。 <b>おきもせず寝もせで夜を明かしては春のものとてながめくらしつ</b>	① いつ	② どこで	③ 誰が	④ 誰に	⑤ 何があったのか。	⑥ なぜ歌を詠んだのか。	⑦ 自分の考えた状況にあわせて、右の和歌を自由に訳してみよう。
---	--	------	-------	------	------	------------	--------------	---------------------------------

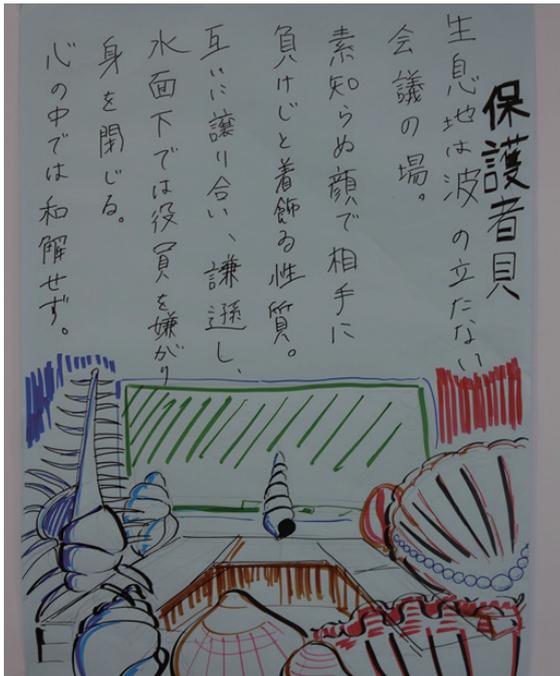
わくわく文学ワークショップ 2015/03/27

WSでの成果発表の様子とワークシート

第2回「見立て」をつくる—絵と文の相互作用— (2016年8月10日於成蹊大学、33名参加)

「見立て」は何かに形状を擬えるというかたちで、今日も日本文化に息づく発想法である。古典和歌をはじめ日本文学、美術、芸能さらに生活文化のさまざまなところで用いられ、とりわけ近世文芸においては多様な展開を見せたことが研究の世界でも注目されてきた。この発想法について理解を深めるべく、近世の見立て絵本を参考にし、「見立て」の概念や作り方を学んだうえで、「貝」をテーマにした見立て絵をチームで創作し、発表した。

この回から口コミで、大学生の他に高校生、大学院生、高校・大学教員、編集者といった社会人も加わった。異なる属性の人たちが一堂に会してともに学び創作することで、それぞれの立場で刺激の得られる場になったようである。各グループが創作した見立て絵とその文章は、学んだ知識を活かしてみごとに応用したものだった。

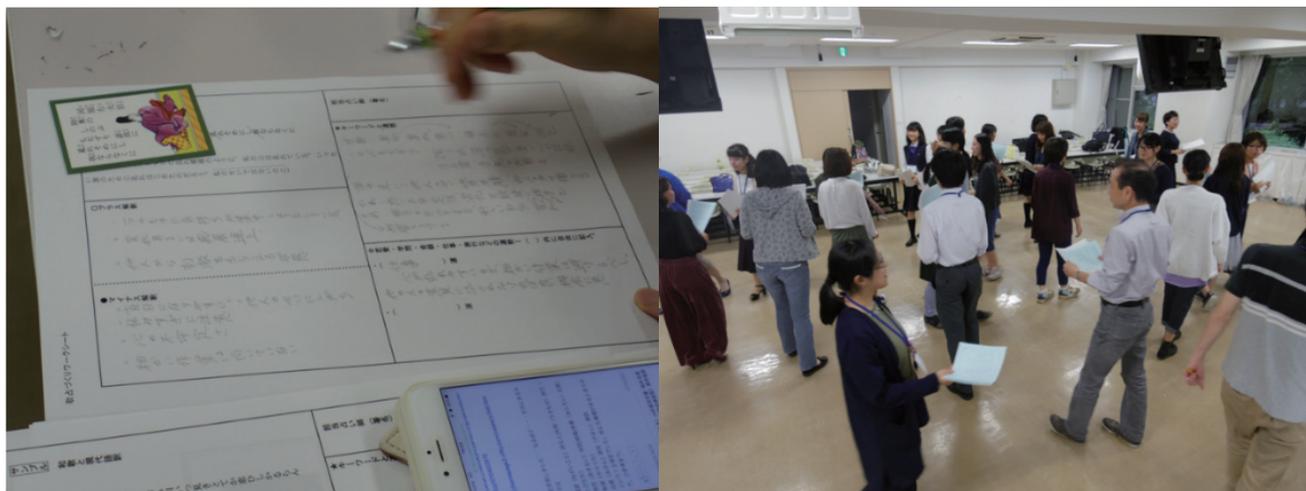


■ 左上から WS で江戸の見立て絵を解釈する様子と創作の様子、実際にできあがった見立て絵、ワークシート例

### 第3回 和歌解釈の多様性——<sup>うたうらみこ</sup>歌占巫子養成講座 (2017年9月17日 於駒澤大学、32名参加)

和歌は、三十一文字という短さゆえに掛詞による二重の文脈を作ったり、叙景歌のなかに恋心を込めたり、圧縮表現を用いたり、さまざまな工夫をこらして詠まれている。また、一首の歌は配置される文脈によって受け取られ方が変わることがある。そのため、根拠を持つ解釈であっても複数の説が生じることがある。そこで、和歌の解釈がなぜ多様になるのか、多様に解釈できることを活かすとどのような世界が広がるかを体験し、それが現代に息づく占いにも通じていくことを実感するワークを行った。

具体的には、百人一首のなかで解釈に複数の説がある歌を取り上げて、まずどちらかの説の立場になり、チームでディベートを実施した。その体験を通して和歌の解釈が多様であることを学んだうえで、百人一首を素材に解釈の多様性を活かした和歌占いの原稿を制作し、受講生同士で占いを実践した。占いでは人生相談あり、悩み相談ありと皆真剣に取り組み、偶然選んだ歌とその歌占が希望を与えてくれたと感激する参加者もいた。“講座”の修了者には「歌占巫子認定証」と参加者の原稿を集成した冊子「百人一首歌占抄」を授与した【注4】。



●百人一首の解釈でミニディベート ワークシート 2019/09/17

① 夏のお祭を題材に選んでください。わからないことはあつたら電子辞書などを調べてみましょう。

② 奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の音きくとぞ秋は悲しき

③ ①の二は、古来二通りに解釈されてきた。二説を併せたり、秋の気味や江戸時代以前の習俗を踏まえて、各説の良否を断言しなすてくたさい。もし、その他の解釈を思いついた場合は、それも書き出しましょう。

A 説 ①「奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の音きくとぞ秋は悲しき」

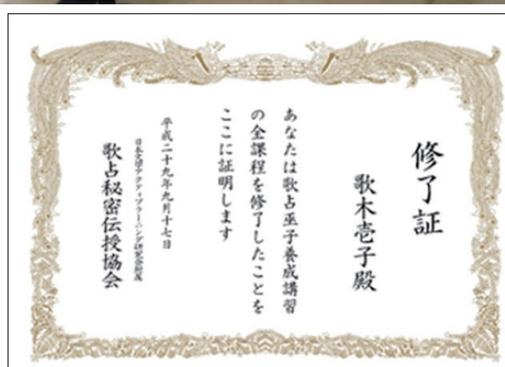
B 説

その他の説

A 説 ②「みかの野わきて花るるいづみ川いつ葉きとてか悲しからむ」

B 説

その他の説



左から WS での占い制作の様子と占い実践の様子、ディベートワークシート例、修了証

#### 第4回 歌の表記と修辞——今日からあなたも万葉歌人（2018年8月7日於法政大学、31名参加）

現存最古の歌集『万葉集』は奈良時代に成立した。その当時、平仮名は成立しておらず、漢字のみで日本語を記していた。そのような表記の様相や枕詞などの修辞を体感しながら、現代の視点で歌の内容を捉えなおすことをねらいとしたワークショップである。『万葉集』を素材として、日本語を漢字で表記する「万葉仮名」や枕詞などの修辞を学んだうえで、オリジナルの枕詞と食べ物の讃歌を創作した。参加者は『万葉集』に出てくる花の名札でグループのメンバーを探したり、万葉歌人風のニックネームをつけたりしてワークに取り組み、万葉歌人になりきって創作をおこなった。表記を工夫すること、表現することの面白さと苦勞を味わう WS だった。



WSでのグループ探し、枕詞のワーク発表



## 第6回 妖怪総選挙！——オンラインデータベースの活用（2021年3月21日 Zoom 開催、24名参加）

コロナ禍でオンラインの環境でしか学べない時期が続いたからこそ、オンラインの強みをポジティブにとらえ、必要なスキルを学び、データベース等をうまく活用する方法を学ぶことをねらいとし、「妖怪総選挙！——オンラインデータベースの活用」というテーマでワークショップをおこなった。Zoomでの開催である【注6】。オンラインデータベースの特徴や活用方法、使用する際の注意点などを学び、クラウド上で共同作業のできる Google スライドを用いながら妖怪の履歴書を作成し、妖怪の魅力をアピールするポスターを創作するという試みをした。参加者はグループに分かれ、JapanKnowledge や Colbase（国立文化財機構所蔵品統合検索システム）、国際日本文化研究センターなどのデータベースを駆使し、見事なポスターを作成していた。ひとりで学習する機会の多い一年だったからこそ、オンライン上でも顔を合わせ、一緒に作業をする機会に喜びを見いだす参加者も多く、あらためて複数名で学ぶ楽しさやメリットに気づいたWSだった。

一言でいうと どんな妖怪？		名前 <b>土蜘蛛</b>	推定年齢 1309歳（『古事記』） 約770歳（『土蜘蛛草子』） （諸説あり）
意匠の妖怪 汚れ役ならお任せ	月岡芳村「土蜘蛛」 （複製、妖怪データベースより）	出没場所 多くは穴に住む 時間 金剛山（奈良県史）	来源 京都神楽団（『土蜘蛛草子』）
文献からわかること			
特徴 穴居、性凶暴（『日本国語大辞典』） おなかの中に1950個の観音（人を食べる？）（『土蜘蛛草紙』） 胃が低く手足が長い、オオカミの性質とフクロウの心をもつ、 中世になると妖怪変化の象徴として能、歌舞伎などの題材に（『日本人名大辞典』） 女の愛をとっていることも（歌川国芳「土蜘蛛の繪」）	特徴 謡曲の中では、個に化ける（『デジタル大辞典』） 種々の妖怪、美女に化ける（『土蜘蛛草紙』）	関連するもの・人物 源頼光（『源平百鬼夜行』）	噂・伝承 源頼光が渡辺綱とともに京都神楽岡の森で種々の妖怪変化に会い、斬りつけた血の痕をたどって、西山奥の洞窟で巨大な土蜘蛛をみつけて仕めたという（『土蜘蛛草紙』）
その他 古代、中央政府の威徳に服しない土着の人々を蔑称して呼んだ称でもある（『日本国語大辞典』） 現在、オオツグモといえはタンランチュウを指す			

### ポスター画像の出所

※作者・作品名・データベース名・URL・最終閲覧日等を明示。

- ・耕漁「能楽百番 土蜘蛛」ARC所蔵・寄託品 浮世絵データベースより  
<https://www.dh-jac.net/db/nishikie/results-big.php?f11=1&f85f1=%F5%9C%9F%E8%9C%98%E8%9B%9B&format=resultsp.htm&max=50&singleskip=7&enter=defautl&lang=ja&skip=0#>（2021年3月21日取得）
- ・怪異・妖怪絵姿データベース『土蜘蛛絵巻』  
<https://janis.nichibun.ac.jp/ema/Detail?rid=09&sid=02&did=01>  
（2021年3月21日取得）
- ・「土蜘蛛」歌川国芳（怪異・妖怪画像データベースより）  
[https://www.nichibun.ac.jp/youkaiGazouCard/M80\\_naprstek\\_0017\\_0001\\_0000.html](https://www.nichibun.ac.jp/youkaiGazouCard/M80_naprstek_0017_0001_0000.html)  
（2021年3月21日取得）

#### チーム T土蜘蛛 課題

- 役割分担
- ・司会（ライ）
- ・発表（みずの）
- ・チャット（れみ）
- ・タイムキーパー（れみ）



【参考】  
つちぐも・土蜘蛛

- 『日本書紀』晋後撰編年表
- 『肥前國風土記』風土記逸文 新編日本古典文学全集 ジャパン・リテラジ
- 『土蜘蛛』The 能. com
- 『土蜘蛛草紙』e国史・絵画



左上から、妖怪の履歴書ワークシート例・辞典表記例、担当妖怪の読み解き教材とグループの創作ポスター

## 第7回 当世徒然草——パロディをつくる（2022年3月20日 Zoom 開催、28名参加）

既存の作品の文体や語句、韻律などの特徴を模して、全く別の意図のもとに滑稽や風刺、諧謔、教訓などを目的として作りかえるというパロディは、昔も今もさまざまなジャンルで創作されている。このワークショップでは、単にパロディの作り方を知るだけではなく、作者の思考を体験し、パロディを翻案、享受（アダプテーション）の一環として考えることをねらいとした。コロナ禍により引き続き Zoom 開催で、「当世徒然草——パロディをつくる」というテーマで実施した。

まず近年大きく研究の進展した兼好や『徒然草』について知る機会を設けた。ついで江戸時代に多く作られた有名古典のパロディのうち、『徒然草』のパロディで吉原遊郭を題材とする『吉原徒然草』からパロディづくりの方法を学び、それを応用して現代版「当世徒然草」を創作した。高校生から社会人までがグループに分かれ、Google スライドを用いてグループで協働し、ひとつのパロディの文章を作る過程で、それぞれの経験値や価値観をすりあわせつつ、工夫を凝らして創作するワークとなった。

この段の文章構成をつかもう！

3グループ 発表用スライド

メンバー名: まいさん、チカ子さん、リンさん、たくみ

『当世徒然草』137段

連絡手段は手紙、授業は対面のみ、するものは。画面にむかひて手を振り、たれこめて文字を打つも、なほあはれに分かりみふかし。

バズりぬべきほどのツイート、流行りしおどりなどこそ、見どころ多けれ。朝の授業でも、「今日起きたら、もう授業の始まる十分前だった、あぶな」とも、「でもオンラインだから間に合っちゃんだよね」などもLINE来けるは、「1限対面間に合いました」と返信しけるに、劣っている事は。

対面のみ伝わりけるニュアンスもあるのはさることなれど、ことに対面しかかたん人ぞ、「オンラインに見どころなし」などは言ふめる。

左から、『徒然草』をよみとくワークシート例と創作されたパロディ例

## 第8回 すれ違い劇場 (2023年3月28日 於法政大学、26名参加)

ちょっとした行き違いや聞き間違いといったすれ違いはどのようにして起こるのか。自分たちにも日常的に起きていることは昔から同じようであり、そこからドラマが生まれることもある。古典に見るさまざまなすれ違いを学ぶことで、なぜ人はすれ違うのかを知り、自身の日頃の言動やコミュニケーションを顧みる視点を獲得すること、創作を通して、すれ違いによるディスコミュニケーションを相対化することをねらいとしてワークショップを企画した。この回は3年ぶりに対面でおこなったが、情勢に鑑み、それまでの1日ばかりから半日に時間を短縮して実施した。

古代、中世、近世の古典の具体例から、一言で「すれ違い」と言ってもことばをめぐるさまざまなすれ違いがあり、そこから悲喜劇が生まれることを学び、その学びを現代にどのように投影できるかの試みとして寸劇を創作した。創作では、同音異義語によるすれ違い、言葉の受け取り方の違いによるすれ違いをもとに、身近なキャンパスライフや乗り合わせた電車内のできごとから、異星人、阿倍仲麻呂まで登場して、多様かつ壮大なすれ違い劇場が展開していた。ふりかえりでは、今の世の中を読み解くヒントになる視点が得られた、文学を学ぶ大切さが腑に落ちたといった感想も聞かれた。

まとめ

言葉の多様性

さまざまなディスコミュニケーションを生む。

それぞれの世界の違い

がわかる。

文学作品を読めば、自分とは異なる視点

に立つ経験ができる。

ちなみに…

様々な視点

様々な作品

文学作品の読解 ⇔ 今を生きることと



左上から、ミニレクチャースライド例と創作発表の様子

## 4 学習指導要領における「資質・能力の三つの柱」とWSの創作活動

本研究会のワークショップは探究型授業の教材開発をめざして開催しているわけだが、参加者にとっても学ぶ興味やモチベーションを育むきっかけとなることを願っている。実際、WSに参加してどう感じ、何を考えたか、ごくわずかだが参加者のコメントを見てみたい。

- ・グループワークをして、一人では思いつかないアイデアに触れられたり、それらを組み合わせ一つのを創り上げたりする楽しさを改めて実感した。
- ・ただ覚えるのではなく、自分で正解のない課題に取り組むことで真の学びとなり、知識を自分のものとして活用できることに気づいた。
- ・日本文学を学ぶ有用性を考えてこなかったが、今日のワークで自分が大学で学んできたことに自信が持てるようになった。

ここには、グループワークによる効果や楽しさについてのコメント、「正解のない課題に取り組む」「真の学び」「知識を自分のものとして活用」といった、まさに「探究」の学びについてのコメント、「日本文学を学ぶ有用性」「自信」といった、文学を学ぶ意義、文学で学ぶこと、自分が主体的に選んだ学びへの自信といったことが書かれている。これらを見ると、WSでは今求められている学び、すなわち学習指導要領の「資質・能力の三つの柱（知識及び技能→何を学び理解したか／思考力、判断力、表現力→学び理解したことをどう活用するか／学びに向かう力、人間性→他者と協働する楽しさ・今の自分や社会と古典がどのようにかかわるか）と合致した探究の学びを、アクティブラーニングでおこなっていると言えよう。

## 5 これからを生き抜くための糧としての「古典」

欧米の大学では学部教育の中核科目に、東アジアの古典を含む世界の文学、哲学、宗教に関する主要テキストを学ぶ科目がある。それは、「時代を超えて読みつがれてきた古典には、人生における重要な問題提起がある。」という考えに基づいて設置されているものである【注7】。

古典は役に立たないと言われがちだが、長年にわたり培われてきた日本文化の持つ発想法を学ぶことで、日常普遍的に抱えている問題を相対化する視座が得られ、ブレイクスルーにつながることもあるだろう。古典は決して不要なものではなく、現在の社会や自分に関連し、これからの社会を生き抜いていくためのヒントや知恵、アイディアに満ちたものである。そんな宝の山である古典から自分にとって支えや糧となるものを見つけられるような、しかも楽しく、ジェネリックスキルも得られるようなアクティブラーニングの教材開発をめざして、本研究会は今後も活動をおこなっていきたい。

## 6 質疑応答を受けて

シンポジウム後半の質疑応答では、本研究会の取り組みについて大きく二点の質問が出された。まず一点目は、「高・大・大学院・社会人連携」を謳っているが、ワークショップで一堂に会して同じ題材に取り組む創作することが「連携」なのか、というものである。これについては、属性や学校・学年の異なるほぼ初対面の人たちでグループを組みひとつのことを創作していく過程において、それぞれがお互いの発想や知識・知恵に驚き、その背景を知ろうとすることも、「連携」なのではないかと考える。高校生が大学生の学びに接続することだけが高大連携ではなく、たとえば教職志望の大学生が高校生のリアルな声を聞くことも、高大連携と言えるのではないか。高校生・大学生が将来を思い描く際には、WSで少し年上の大学院生や社会人に接した経験が生きていることがあるかもしれ

れない。それもひとつの「連携」のあり方だろう。

二点目は、WSの祝祭性と授業という日常性の問題である。WSは半日から一日がかりで、多くは初対面の、立場や年齢の異なる人々が一堂に会しておこなうものである。参加者は自主的に申し込んで参加しているため、通常の授業とは異なる祝祭的な雰囲気がある。このようなWSのワークや創作を一度に授業に取り入れるのは難しいが、いくつかのパートに分解して通常の授業の中に取り入れることは可能である。たとえば、百人一首解釈のディベート、データベースを用いた妖怪履歴書作り、徒然草のパロディ作りなどは、発展学習や探究の授業に取り入れられるだろう。創作課題を授業で実践する場合は、当然評価が問題になるが、典拠をきちんと示しているか（資料を読めているか）、古典作品やその枠組み・伝統をふまえて適切な表現ができていないか、書籍やデータベースを用いて適切な資料を探ることができたか、といった観点を設定し、ルーブリック等で評価することも可能だろう。

本研究会の取り組みを汎用的なものにしていくために、高校や大学をはじめとする現場の教員の知見や要望も取り入れて、古典をより探究的・主体的に学ぶための教材開発を発展させていければと願っている【注8】。

### 【注】

- 【1】研究会の活動については、研究会HPをご参照いただきたい。HPでは、WS全ての回の配付資料・ワークシートをPDFで公開している。<https://nihonbungakual.wixsite.com/koten>
- 【2】成果を順位付け・表彰するかは、研究会内でもつねに議論している。順位付け・表彰はモチベーションが上がるメリットはあるが、内容だけでなく発表の巧拙に引きずられる面もあるからである。発表時に個々の批評を記す機会も設けており、それで十分だという考えもある。
- 【3】日本文学アクティブラーニング研究会「古典文学をアクティブラーニングでまなぶ—和歌を演じるワークショップ」『レポート笠間』58号,2015年5月
- 【4】平野多恵「歌占巫子養成講座—多様性をまなぶワークショップ—」『日本文学』2017年11月号、吉野朋美「古典文学ワークショップの挑戦—日本文学アクティブラーニング研究会の活動を通して—」『中世文学』66号,2021年6月
- 【5】平野多恵・兼岡理恵「高・大・院・社会人連携による古典文学ワークショップの試み—日本文学アクティブラーニング研究会主催第5回ワークショップ「剣の謎にイドむ：剣クロニクルの編纂」報告」『成蹊大学文学部紀要』55号,2020年3月
- 【6】吉野朋美・小林ふみ子「コロナ禍における高・大・院・社会人連携古典文学ワークショップの試み—日本文学アクティブラーニング研究会主催第6回オンラインワークショップ「妖怪総選挙」実践報告—」『文学部紀要 言語・文学・文化』131号（中央大学）,2023年2月
- 【7】ハルオ・シラネ「コロンビア大学における東アジア研究の歴史—これからの日本文学研究に向けて—」『東方学』No. 124,2012年7月
- 【8】各ワークショップの詳細（各ワークのねらいややり方など）については、別途まとめる予定である。